

平成 25 年 3 月 22 日

## 「いのちの水」事業

### 事業報告

国連ハビタットが、福岡ハビタット研究会より 2011 年 2 月末に受理した 60,000 ドルの義援金により、2011 年 5 月から 2012 年 2 月にかけてラオスで実施した「いのちの水」事業について、次のとおり報告する。

- 事業名：                   メコン川流域の学校を対象とした雨水集水システムによる「安全な水」へのアクセス推進事業
- 事業実施場所：         ラオス人民民主共和国  
カムムアン県ターケーク地区・サワナケット県カイソン地区
- 実施機関：             国連ハビタット
- 協力機関：             カムムアン県およびサワナケット県の公共事業局、ナムパパ国営企業

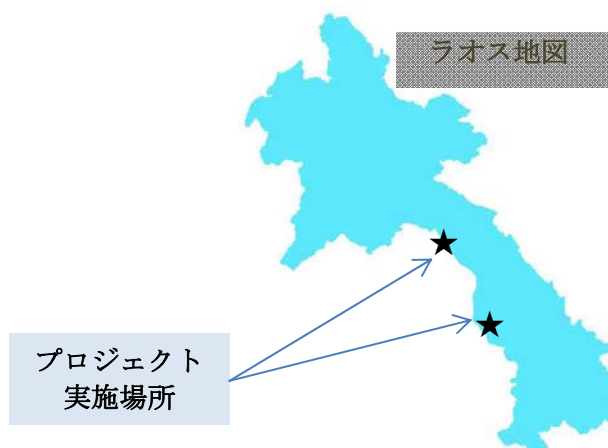
#### ■事業の背景と目的

ラオスにおける安全な水の供給は喫緊の課題である。水の供給率（井戸、雨水タンクを含む）は全国平均で5割程度であるが、地方や農村ではまだ2-4割と大きな格差がある。また、乾季の期間、慢性的に水が不足する地方や農村の世帯は7割に及ぶと推計されている。

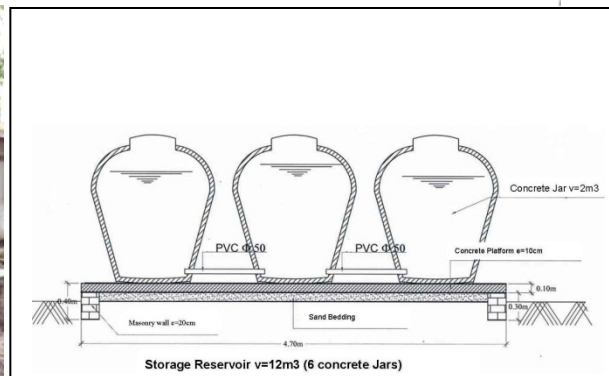
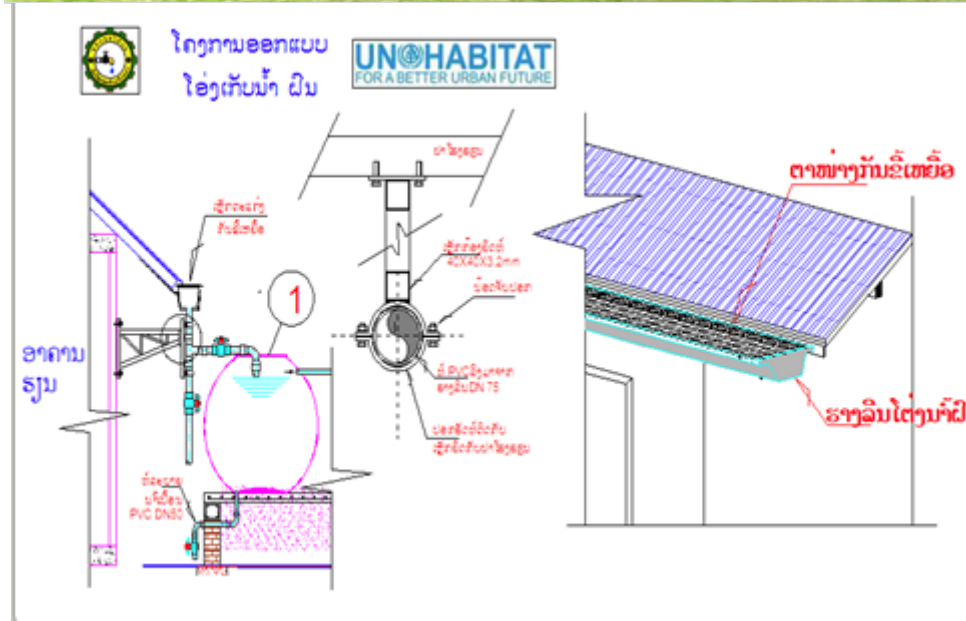
国連ハビタットは水と衛生事業を実施する専門チームをラオスに配置しており、2008年から対象2県において水の供給と衛生設備の拡充などの事業を実施している。本「いのちの水」事業では、給水システムのないターケーク地区およびカイソン地区において最もニーズの高い小中学校5校を対象に、雨水タンクによる給水装置の設計および設置を行った。

#### ■事業の概要

- ① 雨水利用給水システムの設置方法や学校選定のためのワークショップの実施（県、公共事業局、学校、国連ハビタット等出席による）



- ② 雨水利用給水システムのデザイン（屋根の雨どいから6つのコンクリート製の容器に順番に集水。1つの容器で約2000リットル集水可能。）



③ 学校における水や衛生教育の実施

事業の対象となった小中学校では、国連ハビタット水と衛生チームの専門家による水の重要性や保健衛生に関する授業やワークショップが度々開催され、児童および教師への知識向上・啓発に努めた。



□直接受益者数：雨水タンクの設置により、**5つの小中学校**（カムムアン県ムアングソウム中学校、ナグナワイ中学校、サワナケット県ケウアカオワイ小学校、ソックヤン小学校、トンペック小学校）における**合計 1,388名の児童と教職員 80名**に対し、雨水利用による給水が可能となった。また、乾季の間も一定の水を確保することが可能となった。雨水は主としてトイレ、手洗いに利用し、飲用の場合は煮沸して利用している。